

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動	<ul style="list-style-type: none"> ・工認資料構成の相違 （以下，章番号や図表番号等の相違については，差異理由の記載を省略） ・記載表現の相違

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		目次	
		1. 概要…………… 1	
		2. 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア…………… 1	・記載表現の相違
		3. 保管エリアにおける入力地震動の算定…………… 3	
		3.1 保管エリアにおける入力地震動の算定方針…………… 3	
			・記載方針の相違
		3.2 解析条件の設定…………… 4	
		3.3 地震応答解析モデルの作成…………… 16	・記載表現の相違 ・記載表現の相違
		3.4 地震応答解析に用いる地震動…………… 23	・記載表現の相違
		3.5 地震応答解析における解析ケース…………… 24	・記載表現の相違
		4. 加速度応答スペクトルの算定…………… 25	
		4.1 保管エリアの最大応答加速度…………… 25	・記載表現の相違
		4.2 第1保管エリア…………… 28	・保管場所及び保管場所名称 の相違
		4.3 第2保管エリア…………… 71	
		4.4 第3保管エリア…………… 100	
		4.5 第4保管エリア…………… 129	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）


：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>1. 概要</p> <p>本資料は、添付書類「VI-2-別添 3-1 可搬型重大事故等対処設備の耐震計算の方針」に示すとおり、可搬型重大事故等対処設備保管エリア等に保管する可搬型重大事故等対処設備について、その加振試験等に際して必要となる入力地震動を求めために行う、基準地震動S_sを基にした各保管エリアの地盤等の地震応答解析について説明するものである。</p> <p>なお、原子炉建屋、制御建屋、緊急時対策建屋については、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す。</p> <p>本資料には、可搬型重大事故等対処設備保管エリアの地表面における加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトルを示す。</p>	<ul style="list-style-type: none">添付資料構成の相違 (以下、添付書類の章番号や図番等については、差異理由の記載を省略)記載表現の相違記載表現の相違記載表現の相違
		<p>2. 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア</p> <p>可搬型重大事故等対処設備の保管エリアは、位置的分散を考慮し、以下に示す4地点とする。</p> <p>可搬型重大事故等対処設備保管エリアの位置を図2-1に示す。</p> <ul style="list-style-type: none">第1保管エリア第2保管エリア第3保管エリア第4保管エリア	<ul style="list-style-type: none">記載表現の相違保管場所及び保管場所名称の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>図2-1 可搬型重大事故等対処設備保管エリアの位置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>3. 保管エリアにおける入力地震動の算定</p> <p>3.1 保管エリアにおける入力地震動の算定方針</p> <p>保管エリアにおける入力地震動は、水平方向及び鉛直方向に対して、解放基盤表面で定義される基準地震動S_sを基に、各保管エリアにおける地震応答解析により算定する。基準地震動S_sは添付書類「VI-2-1-2 基準地震動S_s及び弾性設計用地震動S_dの策定概要」による。</p> <p>第1, 第3, 第4保管エリアにおける地盤の地震応答解析は、一次元重複反射理論により行う。解析コードは「SHAKE Ver1.6」及び「microSHAKE/3D Ver2.3.3」を使用する。</p> <p>第2保管エリアは淡水貯水槽上に設定されており、地盤及び構造物の地震応答解析は2次元FEM解析により行う。解析コードは「SuperFLUSH/2D Ver.6.1」を使用する。</p> <p>なお、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p>保管エリアにおける入力地震動の算定フローを図3-1に示す。</p> <div data-bbox="1411 1093 1724 1460" data-label="Diagram"> <pre> graph TD A[解析条件の設定 (解析方針)] --> B[解析モデルの作成 (地質構造・地盤物性・材料物性)] B --> C[地震応答解析] C --> D[保管エリア地表面位置における 入力地震動の算定] </pre> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 (女川は、「3.4 地震応答解析に用いる地震動」に記載) ・設計の相違 (使用する解析コードの相違) ・設計の相違 (保管エリアの設置状況の相違) ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 (女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定) ・記載表現の相違
		<p>図3-1 保管エリアにおける入力地震動の算定フロー図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違 （女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違 （女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>3.2 解析条件の設定</p> <p>(1) 地盤の解析用物性値</p> <p>保管エリアにおける地震応答解析に用いる地盤の解析用物性値は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定する。</p> <p>地震応答解析に用いる地盤の解析用物性値を表 3-1～表 3-4 に、地盤の解析用物性値の設定根拠を表 3-5～表 3-8 に示す。</p> <p>第1, 第2, 第4 保管エリアには牧の浜部層の解析用物性値を、第3 保管エリアには狐崎部層の解析用物性値を用いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 （女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定） ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 ・設計の相違 （女川は、解析用物性値を牧の浜部層及び狐崎部層に分けて設定）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機		《参考》東海第二発電所		女川原子力発電所第2号機		備考		
表 3-1(1) 地盤の解析用物性値(狐崎部層)								
階層・地盤	単位体積重量 γ (kN/m ³)	弾性・動的特性			変形特性			
		せん断弾性係数 G (kN/m ²)	せん断弾性係数 E (kN/m ²)	ポアソン比 ν	せん断弾性係数 G (kN/m ²)	せん断弾性係数 E (kN/m ²)	ポアソン比 ν	
E層	砂層	26.4	1.72	43.0	1.30 ^{0.73}	1.770	0.245	0.03
	砂層	26.9	1.58	46.0	1.36 ^{0.62}	2.160	0.28	0.03
C層	砂層	26.7	1.72	43.0	1.30 ^{0.73}	1.770	0.24	0.03
	砂層	26.2	1.72	43.0	1.30 ^{0.73}	1.770	0.24	0.03
D層	砂層	26.6	1.58	46.0	1.36 ^{0.62}	2.160	0.28	0.03
	砂層	26.0	1.72	43.0	1.30 ^{0.73}	1.770	0.24	0.03
C層	砂層	25.2	0.49	47.0	1.16 ^{0.62}	980	0.26	0.03
	砂層	25.8	0.49	47.0	1.16 ^{0.62}	980	0.20	0.03
C層	砂層	25.2	0.49	47.0	1.16 ^{0.62}	980	0.26	0.03
	砂層	24.1	0.46	44.0	0.73 ^{0.76}	400	0.31	0.03
D層	砂層	24.1	0.46	44.0	0.73 ^{0.76}	400	0.31	0.03
	砂層	20.2	0.10	24.0	0.41 ^{0.69}	78	0.58	0.03
D層	砂層	20.2	0.10	24.0	0.12 ^{0.71}	39	0.58	0.03
	砂層	20.2	0.10	24.0	0.41 ^{0.69}	78	0.58	0.03

表 3-1(2) 参照

せん断弾性係数 G (kN/m ²)	せん断弾性係数 E (kN/m ²)	ポアソン比 ν	せん断弾性係数 G (kN/m ²)	せん断弾性係数 E (kN/m ²)	ポアソン比 ν	標準定数 h
$G = 255.4 \sigma^{0.26}$	$E = 0.085 \sigma^{1.7}$	$\nu = 0.31$	$G = 255.4 \sigma^{0.26}$	$E = 0.085 \sigma^{1.7}$	$\nu = 0.31$	$h = 0.0025 \sigma^{0.5} + 0.0028$

・記載表現の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																							
		表 3-1(2) 地盤の解析用物性値(狐崎部層)	・記載表現の相違																																																																																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">岩種・岩級</th> <th rowspan="2">速度層</th> <th colspan="2">動的変形特性</th> </tr> <tr> <th>動せん断弾性係数 $G_d(N/mm^2)$</th> <th>動ポアソン比 ν_d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">B級 及び C₁級</td> <td rowspan="5">砂岩</td> <td>第2速度層</td> <td>1.5×10^8</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>5.9×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>13.2×10^8</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>16.5×10^8</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.6×10^8</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">頁岩</td> <td>第3速度層</td> <td>6.0×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>13.5×10^8</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>16.7×10^8</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">ひん岩</td> <td>第3速度層</td> <td>6.4×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>14.2×10^8</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>17.6×10^8</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">C₂級</td> <td rowspan="5">砂岩</td> <td>第1速度層</td> <td>0.2×10^8</td> <td>0.43</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.5×10^8</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>5.7×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>12.7×10^8</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>15.8×10^8</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">頁岩</td> <td>第1速度層</td> <td>0.2×10^8</td> <td>0.43</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.5×10^8</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>5.9×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>13.0×10^8</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>16.2×10^8</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ひん岩</td> <td>第2速度層</td> <td>1.5×10^8</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>5.7×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>12.7×10^8</td> <td>0.36</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">C₃級</td> <td>第1速度層</td> <td>0.2×10^8</td> <td>0.43</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.4×10^8</td> <td>0.44</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>5.5×10^8</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">D級</td> <td>第1速度層</td> <td>表 3-1(1)参照</td> <td>0.43</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td></td> <td>0.44</td> </tr> </tbody> </table>		岩種・岩級	速度層	動的変形特性		動せん断弾性係数 $G_d(N/mm^2)$	動ポアソン比 ν_d	B級 及び C ₁ 級	砂岩	第2速度層	1.5×10^8	0.44	第3速度層	5.9×10^8	0.40	第4速度層	13.2×10^8	0.36	第5速度層	16.5×10^8	0.35	第2速度層	1.6×10^8	0.44	頁岩	第3速度層	6.0×10^8	0.40	第4速度層	13.5×10^8	0.36	第5速度層	16.7×10^8	0.35	ひん岩	第3速度層	6.4×10^8	0.40	第4速度層	14.2×10^8	0.36	第5速度層	17.6×10^8	0.35	C ₂ 級	砂岩	第1速度層	0.2×10^8	0.43	第2速度層	1.5×10^8	0.44	第3速度層	5.7×10^8	0.40	第4速度層	12.7×10^8	0.36	第5速度層	15.8×10^8	0.35	頁岩	第1速度層	0.2×10^8	0.43	第2速度層	1.5×10^8	0.44	第3速度層	5.9×10^8	0.40	第4速度層	13.0×10^8	0.36	第5速度層	16.2×10^8	0.35	ひん岩	第2速度層	1.5×10^8	0.44	第3速度層	5.7×10^8	0.40	第4速度層	12.7×10^8	0.36	C ₃ 級	第1速度層	0.2×10^8	0.43	第2速度層	1.4×10^8	0.44	第3速度層	5.5×10^8	0.40	D級	第1速度層	表 3-1(1)参照	0.43	第2速度層		0.44
		岩種・岩級				速度層	動的変形特性																																																																																																			
				動せん断弾性係数 $G_d(N/mm^2)$	動ポアソン比 ν_d																																																																																																					
		B級 及び C ₁ 級		砂岩	第2速度層	1.5×10^8	0.44																																																																																																			
					第3速度層	5.9×10^8	0.40																																																																																																			
					第4速度層	13.2×10^8	0.36																																																																																																			
					第5速度層	16.5×10^8	0.35																																																																																																			
					第2速度層	1.6×10^8	0.44																																																																																																			
				頁岩	第3速度層	6.0×10^8	0.40																																																																																																			
					第4速度層	13.5×10^8	0.36																																																																																																			
					第5速度層	16.7×10^8	0.35																																																																																																			
					ひん岩	第3速度層	6.4×10^8	0.40																																																																																																		
						第4速度層	14.2×10^8	0.36																																																																																																		
				第5速度層		17.6×10^8	0.35																																																																																																			
				C ₂ 級		砂岩	第1速度層	0.2×10^8	0.43																																																																																																	
							第2速度層	1.5×10^8	0.44																																																																																																	
					第3速度層		5.7×10^8	0.40																																																																																																		
					第4速度層		12.7×10^8	0.36																																																																																																		
		第5速度層			15.8×10^8		0.35																																																																																																			
頁岩	第1速度層	0.2×10^8	0.43																																																																																																							
	第2速度層	1.5×10^8	0.44																																																																																																							
	第3速度層	5.9×10^8	0.40																																																																																																							
	第4速度層	13.0×10^8	0.36																																																																																																							
	第5速度層	16.2×10^8	0.35																																																																																																							
ひん岩	第2速度層	1.5×10^8	0.44																																																																																																							
	第3速度層	5.7×10^8	0.40																																																																																																							
	第4速度層	12.7×10^8	0.36																																																																																																							
	C ₃ 級	第1速度層	0.2×10^8	0.43																																																																																																						
第2速度層		1.4×10^8	0.44																																																																																																							
第3速度層		5.5×10^8	0.40																																																																																																							
D級	第1速度層	表 3-1(1)参照	0.43																																																																																																							
	第2速度層		0.44																																																																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機		《参考》東海第二発電所		女川原子力発電所第2号機		備考		
表 3-2(1) 地盤の解析用物性値(牧の浜部層)								
岩種	岩係	物理特性		実態特性		変形特性		
		単位体積重量 γ (kN/m ³)	せん断強度 τ_c (N/mm ²)	静的・動的特性 内部摩擦角 ϕ (°)	せん断強度 τ_c (N/mm ²)	静的特性 弾性係数 E (N/mm ²)	動的特性 せん断弾性係数 G (N/mm ²)	動的特性 動ポアソン比 ν_v
[E] 硬	砂岩	26.4	1.29	54.0	1.12 $\sigma^{0.74}$	4,100	0.21	0.03
	頁岩	27.1	1.25	32.0	0.96 $\sigma^{0.91}$	3,700	0.23	0.03
[C] 軟	砂岩	27.9	1.29	54.0	1.12 $\sigma^{0.74}$	2,800	0.18	0.03
	頁岩	26.2	1.29	54.0	1.12 $\sigma^{0.74}$	1,900	0.19	0.03
[C] 軟	砂岩	27.1	1.25	32.0	0.96 $\sigma^{0.91}$	1,900	0.22	0.03
	頁岩	27.9	1.29	54.0	1.12 $\sigma^{0.74}$	1,900	0.18	0.03
[C] 軟	砂岩	25.5	0.78	50.0	1.09 $\sigma^{0.72}$	1,200	0.24	0.03
	頁岩	25.4	0.76	32.0	0.96 $\sigma^{0.91}$	1,500	0.21	0.03
[C] 軟	砂岩	25.5	0.78	50.0	1.09 $\sigma^{0.72}$	1,200	0.24	0.03
	頁岩	23.1	0.46	44.0	0.75 $\sigma^{0.76}$	250	0.26	0.03
[D] 硬	砂岩	23.1	0.46	44.0	0.75 $\sigma^{0.76}$	250	0.26	0.03
	頁岩	20.2	0.10	24.0	0.41 $\sigma^{0.49}$	78	0.38	0.03
[D] 硬	砂岩	20.2	0.10	24.0	0.41 $\sigma^{0.49}$	39	0.38	0.03
	頁岩	20.2	0.10	24.0	0.41 $\sigma^{0.49}$	78	0.38	0.03

表 3-2(2) 参照
 $h = \frac{0.095 \gamma}{(0.00026 + \gamma)} + 0.028$
 $C = 255.4 \sigma^{0.56}$
 $G/G_s = 1 / (1 + 119 \gamma^{0.65})$

・記載表現の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																													
		表 3-2(2) 地盤の解析用物性値(牧の浜部層)	・記載表現の相違																																																																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">階層・階級</th> <th rowspan="2">速度層</th> <th colspan="2">動的定数特性</th> </tr> <tr> <th>動せん断弾性係数 k_s(N/m²)</th> <th>動ポアソン比 ν_d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">B級 及び C級</td> <td rowspan="3">砂岩</td> <td>第2速度層</td> <td>1.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>11.0×10⁹</td> <td>0.34</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">頁岩</td> <td>第3速度層</td> <td>1.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>11.0×10⁹</td> <td>0.34</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ひん岩</td> <td>第3速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>11.0×10⁹</td> <td>0.34</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>16.8×10⁹</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td rowspan="12">D級</td> <td rowspan="4">砂岩</td> <td>第1速度層</td> <td>0.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>11.0×10⁹</td> <td>0.34</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">頁岩</td> <td>第1速度層</td> <td>0.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>11.0×10⁹</td> <td>0.34</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ひん岩</td> <td>第2速度層</td> <td>1.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td>第4速度層</td> <td>11.0×10⁹</td> <td>0.34</td> </tr> <tr> <td>第5速度層</td> <td>16.8×10⁹</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">E級</td> <td>第1速度層</td> <td>0.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td>1.2×10⁹</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第3速度層</td> <td>4.7×10⁹</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">F級</td> <td>第1速度層</td> <td>表 3-2(1)参照</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>第2速度層</td> <td></td> <td>0.40</td> </tr> </tbody> </table>	階層・階級	速度層	動的定数特性		動せん断弾性係数 k _s (N/m ²)	動ポアソン比 ν _d	B級 及び C級	砂岩	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41	第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34	頁岩	第3速度層	1.2×10 ⁹	0.40	第2速度層	4.7×10 ⁹	0.41	第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34	ひん岩	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41	第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34	第5速度層	16.8×10 ⁹	0.23	D級	砂岩	第1速度層	0.2×10 ⁹	0.40	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41	第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34	頁岩	第1速度層	0.2×10 ⁹	0.40	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41	第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34	ひん岩	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41	第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34	第5速度層	16.8×10 ⁹	0.23	E級	第1速度層	0.2×10 ⁹	0.40	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41	F級	第1速度層	表 3-2(1)参照	0.40	第2速度層		0.40
		階層・階級			速度層	動的定数特性																																																																																										
			動せん断弾性係数 k _s (N/m ²)	動ポアソン比 ν _d																																																																																												
		B級 及び C級	砂岩	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40																																																																																										
				第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41																																																																																										
				第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34																																																																																										
			頁岩	第3速度層	1.2×10 ⁹	0.40																																																																																										
				第2速度層	4.7×10 ⁹	0.41																																																																																										
				第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34																																																																																										
			ひん岩	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41																																																																																										
				第4速度層	11.0×10 ⁹	0.34																																																																																										
				第5速度層	16.8×10 ⁹	0.23																																																																																										
			D級	砂岩	第1速度層	0.2×10 ⁹	0.40																																																																																									
					第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40																																																																																									
					第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41																																																																																									
		第4速度層			11.0×10 ⁹	0.34																																																																																										
		頁岩		第1速度層	0.2×10 ⁹	0.40																																																																																										
				第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40																																																																																										
				第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41																																																																																										
第4速度層	11.0×10 ⁹			0.34																																																																																												
ひん岩	第2速度層	1.2×10 ⁹		0.40																																																																																												
	第3速度層	4.7×10 ⁹		0.41																																																																																												
	第4速度層	11.0×10 ⁹		0.34																																																																																												
	第5速度層	16.8×10 ⁹		0.23																																																																																												
E級	第1速度層	0.2×10 ⁹	0.40																																																																																													
	第2速度層	1.2×10 ⁹	0.40																																																																																													
	第3速度層	4.7×10 ⁹	0.41																																																																																													
F級	第1速度層	表 3-2(1)参照	0.40																																																																																													
	第2速度層		0.40																																																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																														
		<p>表 3-3 地盤の解析用物性値（盛土ほか）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分・層名</th> <th colspan="2">地盤物性</th> <th colspan="2">弾性物性</th> <th colspan="2">減衰物性</th> <th colspan="2">圧縮物性</th> <th colspan="2">せん断物性</th> <th colspan="2">動的物性</th> <th rowspan="2">縦波速度 v (N/m²)</th> </tr> <tr> <th>せん断強度 (N/m²)</th> <th>内部摩擦角 (°)</th> <th>弾性係数 E (N/m²)</th> <th>ポアソン比 ν</th> <th>減衰係数 α (N/m²)</th> <th>減衰係数 β (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 G (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 G_s (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 G₀ (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 G_v (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 G_h (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 G₀ (N/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛土</td> <td>20.0</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>0.40</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>盛土</td> <td>10.0</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>0.40</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>砂層</td> <td>10.0</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>0.40</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>セメント改良盛土</td> <td>20.0</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>0.40</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>改良盛土</td> <td>20.0</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>0.40</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>10⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>1.0⁹</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>基礎コンクリート</td> <td>24.0</td> <td>0.00</td> <td>10¹⁰</td> <td>0.20</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>10¹⁰</td> <td>1.0¹⁰</td> <td>1.0¹⁰</td> <td>1.0¹⁰</td> <td>1.0¹⁰</td> <td>1.0¹⁰</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注：単位は(N/m²)。G_vはせん断弾性係数の動的値、G_hはせん断弾性係数の静的値を示す。</p>	区分・層名	地盤物性		弾性物性		減衰物性		圧縮物性		せん断物性		動的物性		縦波速度 v (N/m ²)	せん断強度 (N/m ²)	内部摩擦角 (°)	弾性係数 E (N/m ²)	ポアソン比 ν	減衰係数 α (N/m ²)	減衰係数 β (N/m ²)	せん断弾性係数 G (N/m ²)	せん断弾性係数 G _s (N/m ²)	せん断弾性係数 G ₀ (N/m ²)	せん断弾性係数 G _v (N/m ²)	せん断弾性係数 G _h (N/m ²)	せん断弾性係数 G ₀ (N/m ²)	盛土	20.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250	盛土	10.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250	砂層	10.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250	セメント改良盛土	20.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250	改良盛土	20.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250	基礎コンクリート	24.0	0.00	10 ¹⁰	0.20	0.00	0.00	10 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	300	<p>・記載表現の相違</p>
区分・層名	地盤物性			弾性物性		減衰物性		圧縮物性		せん断物性		動的物性		縦波速度 v (N/m ²)																																																																																																			
	せん断強度 (N/m ²)	内部摩擦角 (°)	弾性係数 E (N/m ²)	ポアソン比 ν	減衰係数 α (N/m ²)	減衰係数 β (N/m ²)	せん断弾性係数 G (N/m ²)	せん断弾性係数 G _s (N/m ²)	せん断弾性係数 G ₀ (N/m ²)	せん断弾性係数 G _v (N/m ²)	せん断弾性係数 G _h (N/m ²)	せん断弾性係数 G ₀ (N/m ²)																																																																																																					
盛土	20.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250																																																																																																				
盛土	10.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250																																																																																																				
砂層	10.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250																																																																																																				
セメント改良盛土	20.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250																																																																																																				
改良盛土	20.0	0.00	10 ⁹	0.40	0.00	0.00	10 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	1.0 ⁹	250																																																																																																				
基礎コンクリート	24.0	0.00	10 ¹⁰	0.20	0.00	0.00	10 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	1.0 ¹⁰	300																																																																																																				
		<p>表 3-4 地盤の解析用物性値（マンメイドロック）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">物性値</th> <th colspan="4">強度物性</th> <th colspan="4">弾性物性</th> </tr> <tr> <th>せん断強度 (N/m²)</th> <th>内部摩擦角 (°)</th> <th>引張強度 (N/m²)</th> <th>せん断弾性係数 (N/m²)</th> <th>弾性係数 (N/m²)</th> <th>ポアソン比</th> <th>せん断弾性係数 (N/m²)</th> <th>縦波速度 (N/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マンメイドロック（現況） （G₀=3.0 N/m²）</td> <td>22.6</td> <td>3.12</td> <td>-*</td> <td>1.43</td> <td>20090</td> <td>0.2</td> <td>8579</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>マンメイドロック（新設） （G₀=21.0 N/m²）</td> <td>22.5</td> <td>4.20</td> <td>-*</td> <td>1.75</td> <td>23000</td> <td>0.2</td> <td>9792</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small;">注：*：内部摩擦角及びせん断弾性係数は保守的に考慮しない。</p>	物性値	強度物性				弾性物性				せん断強度 (N/m ²)	内部摩擦角 (°)	引張強度 (N/m ²)	せん断弾性係数 (N/m ²)	弾性係数 (N/m ²)	ポアソン比	せん断弾性係数 (N/m ²)	縦波速度 (N/m ²)	マンメイドロック（現況） （G ₀ =3.0 N/m ² ）	22.6	3.12	-*	1.43	20090	0.2	8579	3	マンメイドロック（新設） （G ₀ =21.0 N/m ² ）	22.5	4.20	-*	1.75	23000	0.2	9792	3	<p>・記載表現の相違</p>																																																																											
物性値	強度物性				弾性物性																																																																																																												
	せん断強度 (N/m ²)	内部摩擦角 (°)	引張強度 (N/m ²)	せん断弾性係数 (N/m ²)	弾性係数 (N/m ²)	ポアソン比	せん断弾性係数 (N/m ²)	縦波速度 (N/m ²)																																																																																																									
マンメイドロック（現況） （G ₀ =3.0 N/m ² ）	22.6	3.12	-*	1.43	20090	0.2	8579	3																																																																																																									
マンメイドロック（新設） （G ₀ =21.0 N/m ² ）	22.5	4.20	-*	1.75	23000	0.2	9792	3																																																																																																									

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																
		<p style="text-align: center;">表 3-5 地盤の解析用物性値の設定根拠（狐崎部層）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">地盤物性</th> <th>動弾性係数</th> <th>減衰係数</th> <th>圧縮弾性係数</th> <th>せん断弾性係数</th> <th>体積弾性係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">[B] [E] [F]</td> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">[C]</td> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">[D]</td> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>2.0E+07</td> <td>0.05</td> <td>2.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> <td>1.0E+07</td> </tr> </tbody> </table>	地盤物性		動弾性係数	減衰係数	圧縮弾性係数	せん断弾性係数	体積弾性係数	[B] [E] [F]	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	[C]	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	[D]	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07	<p>・記載表現の相違</p>
		地盤物性		動弾性係数	減衰係数	圧縮弾性係数	せん断弾性係数	体積弾性係数																																																											
		[B] [E] [F]	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
			砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
			砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
		[C]	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
			砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
			砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
		[D]	砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
			砂	2.0E+07	0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																											
砂	2.0E+07		0.05	2.0E+07	1.0E+07	1.0E+07																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 []：前回提出時からの変更箇所

柏崎刈羽原子力発電所第7号機

先行審査プログラムの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

《参考》東海第二発電所

女川原子力発電所第2号機

備考

表 3-6 地盤の解析用物性値の設定根拠(牧の浜部層)

岩種・岩級	物理特性	強度特性		変形特性	
		静的・動的特性	静的特性	動的特性	動的特性
B級	砂岩	密度試験	C級と同じ値	換算値	PS換算
	頁岩				
	ひん岩				
C級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験	岩盤変形試験	
	頁岩		換算値	砂岩と同じ値	
	ひん岩		砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
C級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験	岩盤変形試験	
	頁岩		摩擦抵抗試験	岩盤変形試験	
	ひん岩		砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
C級	砂岩	密度試験	ロックせん断試験	換算値	
	頁岩		摩擦抵抗試験	砂岩と同じ値	
	ひん岩		砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	
B級	砂岩	密度試験	ブロックせん断試験	換算値	繰返し三軸試験
	頁岩		摩擦抵抗試験		砂岩と同じ値
	ひん岩	換算値	換算値	砂岩と同じ値	
	砂岩	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値	砂岩と同じ値

・記載表現の相違

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があります。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 黄色：前回提出時からの変更箇所

柏崎刈羽原子力発電所第7号機

先行審査プログラムの記載との比較表 (VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動)

《参考》東海第二発電所

女川原子力発電所第2号機

備考

・記載表現の相違

2021年6月11日
 02-I-B-01-0029_改0

表 3-7 地盤の解析用物性値の設定根拠(盛土ほか)

岩種・岩族	物理特性	強度特性		変形特性	
		静的・動的特性	静的特性	動的特性	動的特性
盛土	現場密度試験	三軸圧縮試験	三軸圧縮試験	繰返し三軸試験	
田表土	密度試験	三軸圧縮試験	三軸圧縮試験	繰返し三軸試験	
断層及びシーム	密度試験	単純せん断試験	単純せん断試験	繰返し単純せん断試験	
セメント改良土	現場密度試験	三軸圧縮試験 岩石の引張強さ試験	三軸圧縮試験	PS 検荷 繰返し三軸試験	
改良地盤	密度試験	三軸圧縮試験 岩石の引張強さ試験	平板載荷試験	PS 検荷 繰返し三軸試験	
寄附地盤 改良コンクリート		コンクリート標準示方書 構造性能照査編			

表 3-8 地盤の解析用物性値の設定根拠(マンメイドロック)

	物理特性	強度特性		変形特性			
		せん断強度 τ_u (N/mm ²)	引張強度 σ_t (N/mm ²)	ヤング係数 E (N/mm ²)	せん断剛性 G (N/mm ²)	ポアソン比	減衰定数 (%)
マンメイドロック (既設) ($f'_c=15.6$ N/mm ²)	文獻に基づき 設定**	文獻に基づき設定** ($\tau_u=1/3\sigma_t$)	文獻に基づき設定** ($\sigma_t=0.23f'_c$)	文獻に基づき 設定*	ヤング係数と ポアソン比の 関係より算出	文獻に基づき 設定*	岩盤と同じ値
マンメイドロック (新設) ($f'_c=21.0$ N/mm ²)	文獻に基づき 設定**	文獻に基づき設定** ($\tau_u=1/3\sigma_t$)	文獻に基づき設定** ($\sigma_t=0.23f'_c$)	文獻に基づき 設定*	ヤング係数と ポアソン比の 関係より算出	文獻に基づき 設定*	岩盤と同じ値

注記*1: コンクリート標準示方書 構造性能照査編 土木学会 2002年
 *2: コンクリート標準示方書 ダムコンクリート編 土木学会 2013年

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があります。公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																							
		<p>(2) 地下水位</p> <p>保管エリアにおける地震応答解析に用いる地下水位は、添付書類「VI-1-1-6-別添1 可搬型重大事故等対処設備の保管場所及びアクセスルート」に基づき設定する。各保管エリアにおける地下水位の設定を表3-9に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・設計の相違 (地下水位設定方針の相違) 																							
		<p>表3-9 各保管エリアにおける地下水位の設定</p> <table border="1" data-bbox="1317 483 1839 1075"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>地震応答解析モデルの位置</th> <th>地下水位* (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">第1保管エリア</td> <td>①</td> <td>0.P.+61.73 (地表面)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>0.P.+61.77 (地表面)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>0.P.+61.69 (地表面)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第2保管エリア</td> <td>NS方向</td> <td>0.P.+62.00 (地表面)</td> </tr> <tr> <td>EW方向</td> <td>0.P.+62.00 (地表面)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第3保管エリア</td> <td>①</td> <td>0.P.+14.80 (地表面)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>0.P.+14.80 (地表面)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第4保管エリア</td> <td>①</td> <td>0.P.+62.00 (地表面)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>0.P.+62.00 (地表面)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：2011年東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動を考慮すると、表記値より一様に約1m沈下。以後の記載についても同様。</p>	対象	地震応答解析モデルの位置	地下水位* (m)	第1保管エリア	①	0.P.+61.73 (地表面)	②	0.P.+61.77 (地表面)	③	0.P.+61.69 (地表面)	第2保管エリア	NS方向	0.P.+62.00 (地表面)	EW方向	0.P.+62.00 (地表面)	第3保管エリア	①	0.P.+14.80 (地表面)	②	0.P.+14.80 (地表面)	第4保管エリア	①	0.P.+62.00 (地表面)	②
対象	地震応答解析モデルの位置	地下水位* (m)																								
第1保管エリア	①	0.P.+61.73 (地表面)																								
	②	0.P.+61.77 (地表面)																								
	③	0.P.+61.69 (地表面)																								
第2保管エリア	NS方向	0.P.+62.00 (地表面)																								
	EW方向	0.P.+62.00 (地表面)																								
第3保管エリア	①	0.P.+14.80 (地表面)																								
	②	0.P.+14.80 (地表面)																								
第4保管エリア	①	0.P.+62.00 (地表面)																								
	②	0.P.+62.00 (地表面)																								

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考													
		(3) 使用材料及び材料の物性値 第2保管エリアである淡水貯水槽における使用材料及び地震応答解析に必要な材料の物性値を，表3-10に示す。	・記載表現の相違													
		<p style="text-align: center;">表3-10 使用材料及び材料の物性値</p> <table border="1" data-bbox="1301 443 1854 571"> <thead> <tr> <th></th> <th>ヤング係数 E (N/mm²)</th> <th>せん断弾性係数 G (N/mm²)</th> <th>ポアソン比 ν</th> <th>単位体積重量 γ (kN/m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通 コンクリート f_c=24</td> <td>2.27×10⁴ **</td> <td>0.945×10⁴ **</td> <td>0.2</td> <td>23 **</td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>2.05×10⁵</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：E = 3.35 × 10⁴ × (23/24)² × (24/60)^{1/3} = 22669 N/mm² ⇒ 2.27 × 10⁴ N/mm²</p> <p>G = $\frac{3.35 \times 10^4 \times \left(\frac{23}{24}\right)^2 \times \left(\frac{24}{60}\right)^{1/3}}{2(1+0.2)}$ = 9445.4 N/mm² ⇒ 0.945 × 10⁴ N/mm²</p> <p>*2：鉄筋コンクリートの場合は24とする。</p>		ヤング係数 E (N/mm ²)	せん断弾性係数 G (N/mm ²)	ポアソン比 ν	単位体積重量 γ (kN/m ³)	普通 コンクリート f _c =24	2.27×10 ⁴ **	0.945×10 ⁴ **	0.2	23 **	鉄筋	2.05×10 ⁵	-	-
	ヤング係数 E (N/mm ²)	せん断弾性係数 G (N/mm ²)	ポアソン比 ν	単位体積重量 γ (kN/m ³)												
普通 コンクリート f _c =24	2.27×10 ⁴ **	0.945×10 ⁴ **	0.2	23 **												
鉄筋	2.05×10 ⁵	-	-	-												
		(4) 基準地震動 S _s 保管エリアにおける地震応答解析に用いる基準地震動 S _s は，添付書類「VI-2-1-2 基準地震動 S _s 及び弾性設計用地震動 S _d の策定概要」に基づき，水平方向及び鉛直方向に対して，解放基盤表面で定義される基準地震動 S _s を用いる。	・記載表現の相違 ・記載表現の相違													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>3.3 地震応答解析モデルの作成</p> <p>地震応答解析モデルは、各保管エリアにおいて、周辺の地質構造を考慮して作成する。なお、第2保管エリアは淡水貯水槽上に設定されており、地盤及び構造物をモデル化する。</p> <p>地震応答解析モデルの作成位置を図3-2に、地震応答解析モデルを図3-3～図3-6、表3-11及び表3-12に示す。</p> <div data-bbox="1301 555 1852 1043" data-label="Image"> </div> <p>図3-2 地震応答解析モデルの作成位置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・設計の相違 (保管エリアの設置状況の相違) ・記載表現の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>第1保管エリア① 第1保管エリア② 第1保管エリア③</p> <p>図 3-3 第1保管エリアの地震応答解析モデル（1次元）</p>	<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

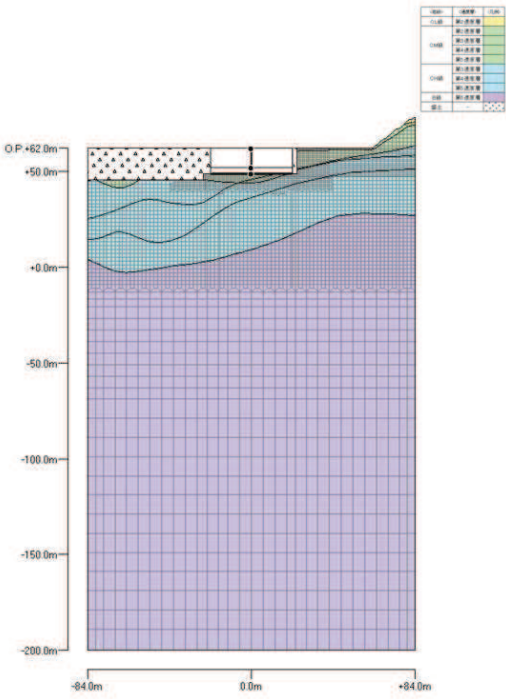
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

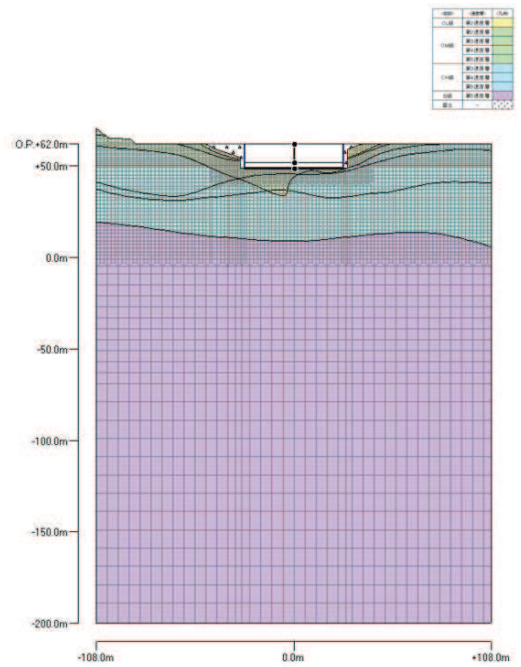
赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>(1) NS 方向</p> <p>図 3-4(1) 第2保管エリアの地震応答解析モデル（2次元）</p>	<p>・設計の相違 （解析方法の相違）</p>

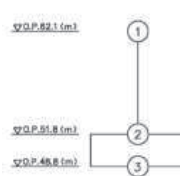
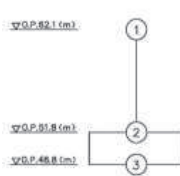
赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>(2) EW 方向</p> <p>図 3-4(2) 第2保管エリアの地震応答解析モデル（2次元）</p>	<p>・設計の相違 (解析方法の相違)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																				
		<p>表3-11 第2保管エリアの地震応答解析モデル（質点系）諸元 （NS方向）</p>  <table border="1" data-bbox="1500 303 1859 558"> <thead> <tr> <th>質点番号</th> <th>重量 P</th> <th>回転慣性 I_g</th> <th>断面2次モーメント I</th> <th>せん断断面積 A_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>215000</td> <td>320.3</td> <td>1085.1</td> <td>405.0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>252000</td> <td>376.4</td> <td>2034.0</td> <td>2268.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>81850</td> <td>120.2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・基礎スラブ：42.0m (NS) × 54.0m (EW) ・総重量：560540 (524780) kN</p>	質点番号	重量 P	回転慣性 I _g	断面2次モーメント I	せん断断面積 A _s	1	215000	320.3	1085.1	405.0	2	252000	376.4	2034.0	2268.0	3	81850	120.2			<p>・設計の相違 （解析方法の相違）</p>
		質点番号	重量 P	回転慣性 I _g	断面2次モーメント I	せん断断面積 A _s																	
1	215000	320.3	1085.1	405.0																			
2	252000	376.4	2034.0	2268.0																			
3	81850	120.2																					
		<p>表3-12 第2保管エリアの地震応答解析モデル（質点系）諸元 （EW方向）</p>  <table border="1" data-bbox="1500 813 1859 1085"> <thead> <tr> <th>質点番号</th> <th>重量 P</th> <th>回転慣性 I_g</th> <th>断面2次モーメント I</th> <th>せん断断面積 A_s</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>215000</td> <td>527.7</td> <td>1576.8</td> <td>388.8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>252000</td> <td>619.3</td> <td>5511.3</td> <td>2268.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>81850</td> <td>188.6</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・基礎スラブ：42.0m (NS) × 54.0m (EW) ・総重量：560540 (524780) kN</p>	質点番号	重量 P	回転慣性 I _g	断面2次モーメント I	せん断断面積 A _s	1	215000	527.7	1576.8	388.8	2	252000	619.3	5511.3	2268.0	3	81850	188.6			<p>・設計の相違 （解析方法の相違）</p>
		質点番号	重量 P	回転慣性 I _g	断面2次モーメント I	せん断断面積 A _s																	
1	215000	527.7	1576.8	388.8																			
2	252000	619.3	5511.3	2268.0																			
3	81850	188.6																					

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 [黄色背景]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

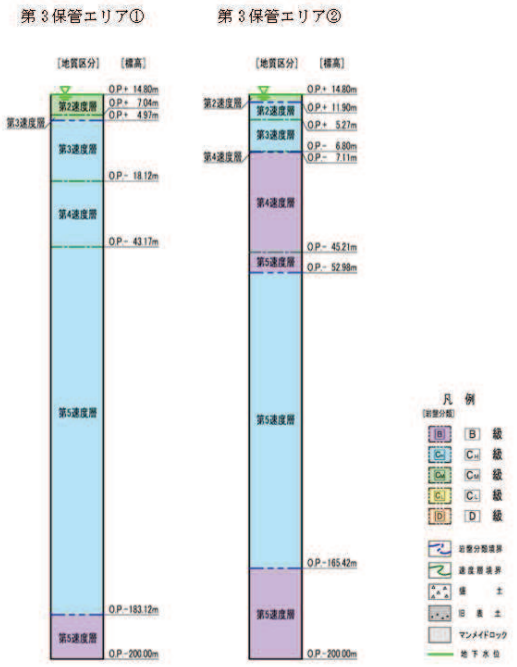
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>第3保管エリア①</p> <p>第3保管エリア②</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> B 級 C 級 C₁ 級 C₂ 級 D 級 基礎部分埋設 基礎埋設 土 土 マンメイドロック 地下水位 	<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

図 3-5 第3保管エリアの地震応答解析モデル（1次元）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 [黄色背景]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

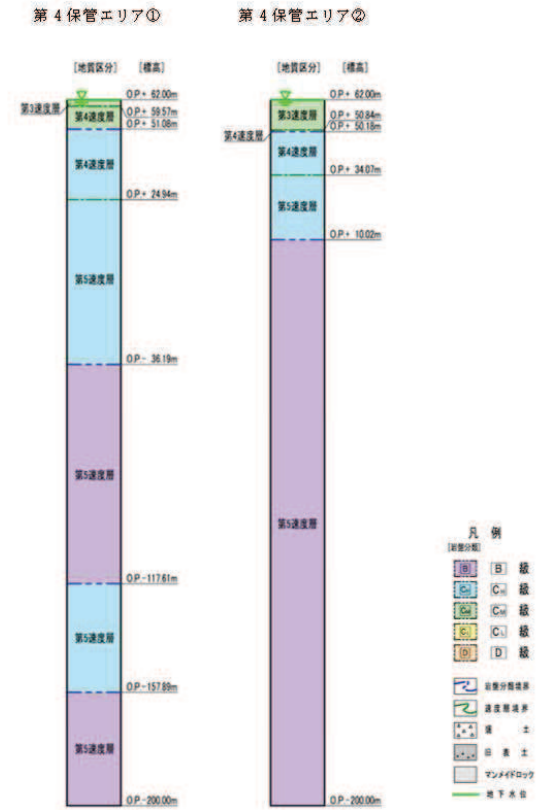
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		 <p>第4保管エリア①</p> <p>第4保管エリア②</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> [B] 級 [C] 級 [C] 級 [C] 級 [D] 級 自然分層地盤 速度増進地盤 堆土 堆土 コンクリート 地下水位 	<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

図 3-6 第4保管エリアの地震応答解析モデル（1次元）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・設備名称及び記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違 （女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定）

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>3.4 地震応答解析に用いる地震動</p> <p>地震応答解析に用いる地震動は、解放基盤表面で定義される基準地震動 S_s を、一次元重複反射理論により地震応答解析モデルの底面位置で評価したものをを用いる。</p> <p>地震応答解析に用いる地震動算定の概念図を図3-7に示す。地震応答解析に用いる地震動の算定には、解析コード「SHAKE Ver1.6」及び「microSHAKE/3D Ver2.3.3」を使用する。なお、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・設計の相違 (解析コードの相違) ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 (女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定)

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違 （女川は、添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定）</p> <p>・設計の相違 （女川は、岩盤の地盤物性のばらつきについて影響を確認）</p>
		<p>図 3-7 地震応答解析に用いる地震動算定の概念図</p> <p>3.5 地震応答解析における解析ケース</p> <p>保管エリアにおける入力地震動の算定においては、地盤物性のばらつきの影響を考慮するため、表 3-13 に示す解析ケースを設定する。</p>	

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 []：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考										
		<p>保管エリアは主として C_{II} 級岩盤，C_{III} 級岩盤，B 級岩盤が分布し，これらの地盤が地震時に保管エリアにおける入力地震動に影響を与えると判断されることから，これらの物性のばらつきについて影響を確認する。</p> <p>表 3-13 解析ケース</p> <table border="1" data-bbox="1299 877 1859 1117"> <thead> <tr> <th>解析ケース</th> <th>材料物性 (E₀: ヤング係数)</th> <th>地盤物性 (G_d: 動せん断弾性係数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース① (基本ケース)</td> <td rowspan="3">設計基準強度</td> <td>平均値</td> </tr> <tr> <td>ケース②</td> <td>平均値+1σ</td> </tr> <tr> <td>ケース③</td> <td>平均値-1σ</td> </tr> </tbody> </table>	解析ケース	材料物性 (E ₀ : ヤング係数)	地盤物性 (G _d : 動せん断弾性係数)	ケース① (基本ケース)	設計基準強度	平均値	ケース②	平均値+1σ	ケース③	平均値-1σ	<p>・設計の相違 (女川は，岩盤の地盤物性のばらつきについて影響を確認)</p> <p>・設計の相違 (女川は，岩盤の地盤物性のばらつきについて影響を確認)</p> <p>・記載表現の相違</p>
解析ケース	材料物性 (E ₀ : ヤング係数)	地盤物性 (G _d : 動せん断弾性係数)											
ケース① (基本ケース)	設計基準強度	平均値											
ケース②		平均値+1σ											
ケース③		平均値-1σ											

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違点（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>4. 加速度応答スペクトルの算定 保管エリアにおける入力地震動の解析ケースより、最大応答加速度と加速度応答スペクトルを整理する。 なお、本資料では、表 3-13 に示す解析ケースのうち「基本ケース」の算定結果を示す。</p> <p>4.1 保管エリアの最大応答加速度 第1保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4-1～表 4-3 に、第2保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4-4 及び表 4-5 に、第3保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4-6 及び表 4-7 に、第4保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4-8 及び表 4-9 に示す。</p>	<p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違 ・保管場所及び保管場所名称の相違</p>